
P29-02 回復期リハビリテーション病棟におけるNSCWの家庭訪問参加にむけた取り組み～アンケートの結果から見えた課題～

阿部 施子

医療法人社団 輝生会 船橋市立リハビリテーション病院

【目的】回復期リハビリテーション病棟において看護師・介護福祉士（以下NSCW）が家庭訪問に関わっている施設は多いがセラピストに帯同している。NSCWが積極的に家庭訪問に参画することで在宅生活に即した生活指導が増えたと考え、アンケートを実施し参画するための課題を抽出する。【方法】病棟勤務のNSCW104名に家庭訪問参加に関するアンケート実施。集計した結果を分析し課題抽出。【結果】参加経験なし27%、3回以上の経験は11%、家庭訪問に参加したい60%、参加したくない1%。家庭訪問に行く意義・目的、また、手順を理解しているとの回答は少なかったが、意義・目的の自由記載では、在宅生活をイメージして退院支援が出来ると記載しているものが多かった。人員が不足しているため参加できない、業務に追われて気持ちに余裕がないとの回答についてはCWよりNSが多かった。【結論】アンケート結果より家庭訪問に参加したいと思っているNSCWは多い。その意義目的をよく理解していると答えたものは少ないが、自由記載では意義目的に値する考えを持っている事がわかった。人員不足、多忙な業務の為に参加できないと答えているものはNSの方が多い。これはNSがリーダー業務や入院受けなどを担当しているためと考えられる。このことから家庭訪問参加にむけた課題としては、意義・目的を明確に認識すること、不在時間の業務調整の検討が必要と考える。